



今年もよろしく願いいたします



酷暑続きの夏、そして季節外れの暑い秋と続き、昨年は暖冬。つい最近まで日中は窓を開けて換気できるほどの暖かい日々が続きました。

地球温暖化の影響で「四季」から「二季」になりつつあるとの声も多く聞かれる中、状況一転、急に冬らしくなってきました。空気が乾燥し、インフルエンザも猛威を振るっているようです。皆様におかれましてはくれぐれもご自愛くださいますよう・・・。

さて、れきしてらすが開館して迎える2度目の新年。今年は市制施行55周年、睡足軒ゆかりの松永安左エ門翁の生誕150周年、そして大和田・普光明寺の千駄地蔵尊の33年に1回の御開帳とアニバーサリーが目白押し！これらにちなんだ展示やイベントも盛りだくさん！れきしてらすから目が離せない1年になるよう職員一同頑張っまいりますので、今年も応援よろしく願いいたします！

「野火止用水陣屋堀築堤遺構」を市の文化財に指定しました！

江戸時代前期に開削された野火止用水は、市内で大きく4つの流れに分かれています。「陣屋堀」はそのうちの一つで、地域を統治していた高崎藩の陣屋と野火止下の住民の飲用水として使われたものです。陣屋があったと伝えられる場所の付近は窪地であることから、水路の勾配を確保するために土を高く盛って堤を築き、その上に水を通していました。



【陣屋堀築堤遺構（断面）】

「陣屋堀築堤」は江戸時代に高度な土木技術が存在したことを証明する重要な遺構であることから、これを保存し後世に伝えていくために、昨年8月に市の文化財（史跡）に指定したものです。

【見学にあたってのご注意】

- ① 築堤周辺は、現在住宅地です。見学の際は近隣住民への配慮をお願いします。
- ② 崩落防止のため、築堤には登らないでください。

期間限定展示・イベント等のご案内

◇年中行事を学ぼう 第4弾◇

新座市域では見る機会が少なくなった「マユダマ飾り」を再現します。



★期間：

1月10日（金）～
1月29日（水）

◆企画展示「普光明寺と大和田」展◆

33年に1回の千駄地蔵尊の御開帳を4月に控える市内大和田の普光明寺。

これを記念して、普光明寺や大和田地区の歴史、千駄地蔵尊について紹介します。

★期間：2月15日（土）～4月13日（日）

◆今年も展示室に「お雛様」を飾ります◆

（2月中旬～3月上旬予定）

～れきしてらすコラム～【学芸員のつぶやき】

第7回「2月は節分！・・・節分って何？」

お正月休みが明け、2月3日は「節分」。昭和の時代には「鬼は外！福は内！」の掛け声でご近所一帯に響いたものですが、近年はすっかり見かけなくなりました。「こうしてまた一つ、季節の風物詩が消えていくのか・・・」と思うと少し寂しくなります。

さて、この「節分」、今では掃除が大変と、大豆を炒った福豆ではなく殻付きの落花生をまいたり、恵方巻を無言で食べたりと、すっかり様変わりしてしまいましたが、何のための行事なのでしょう？今回は「節分」について触れたいと思います。

「節分」という言葉には文字通り「季節を分ける」という意味があり、「立春」「立夏」「立秋」「立冬」それぞれの前日が「節分」とされています。旧暦では春から1年が始まるとされていたことから、特に春の節分が大切とされ、「節分」は「冬から春にかわる節目の日」として定着し、現在に至っています。

古来より、季節の変わり目には邪気が現れやすいとされ、その邪気が風邪などの病気を流行らせると考えられていました。現在も冬にインフルエンザ等が流行しますが、ウイルスの存在を知らなかった昔の人々は、邪気の象徴である「鬼」を遠ざけることで、病を防ごうとしました。しかし、鬼は「おぬ」（存在しない・感知できない）者であるため、それに対抗するにも神秘的な力が必要であるとされました。

この鬼を追い払う中国の行事「追儺（ついな）」が日本に伝わり、鬼を滅ぼすという意味の「魔（ま）を滅（めつ）する」が「魔滅（まめ）」となり、それにちなんで「豆」がまかれるようになった、という説があります。また、豆は畑にまくと芽が出て、作物が育つことから、その一粒一粒に神秘的な力が宿っていて、鬼に対抗できると考えられていた、という説もあります。

次回の「れきしてらす通信」は4月発行の予定です

最新情報は「広報にいざ」または新座市のホームページをご覧ください！